

令和5年度 家庭教育支援プログラム指導者研修③ 実施報告

実施日：令和5年7月5日（水）

【午前の研修】

○ 説明「コミュニケーションの技法について」

家庭教育支援者に必要なコミュニケーションの技法について説明がありました。ポイントとして、伝えたいことが正確に伝わる状態が正しいコミュニケーションであり、そのためには自分の思いや考えを正確に伝えるだけでなく、相手の思いや考えを正確に受け止める力が必要であることを学びました。また、アサーティブな表現やリフレーミングについても学び、コミュニケーションについて理解を深めることができました。

総合教育センター職員



○ 説明・演習「ファシリテーター演習に向けて」

那須教育事務所ふれあい学習課 副主幹 田辺 剛

家庭教育支援プログラムをファシリテートする際のポイント、特に場のデザインスキルと対人関係のスキルについて、演習を交えた説明がありました。場のデザインスキルでは、参加者が安心して話ができる雰囲気づくりのポイント、対人関係スキルでは、「聴く力」「応える力」「観る力」「訊く力」、そして柔らかく「話す力」のポイントについて詳しい説明がありました。

受講者は、説明と演習を通して、ファシリテーターとしての基礎的なスキルについて学ぶことができました。



【午後の研修】

○ 説明・演習「家庭教育支援プログラム活用の実際」

総合教育センター職員
各教育事務所ふれあい学習課職員

既存のプログラムを参加者の実情に合わせて再構成する演習を行いました。受講者は、実践場面を想定し、プログラムのねらいを確認しながら、アイスブレイクやワーク、ふり返しなどが効果的になるようプログラムを再構成していました。受講者は、グループで積極的に意見を出し合い、プログラム再構成の方法を理解しました。



☆受講者の声（アンケートから）

- ・「リフレーミング」について学びました。短所を長所として置きかえるのは、子どもにとっても大人にとっても大事で、自信につながったり、良い印象につながったりすると感じたので、日頃から心がけようと思います。
- ・ファシリテーター自身が緊張せず、リラックスして楽しく進行することが雰囲気づくりにつながるんだと思いました。
- ・ファシリテーター同士で、展開表を作り可視化して、情報や思いを共有することは本当に大事だと気付きました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp